

第1回第2期高知県教育振興基本計画推進会議（9/2）の主な意見

【総論関係】

- 「個別の指導計画を作成した園の割合 100%」や「体育・保健体育の授業が楽しいと思う児童生徒の割合 100%」などの指標は現実的ではないし、実態にもそぐわないのではないかと。

【チーム学校関係】

- 教科会は非常に重要。東京の高等学校では、校務分掌の中に教科会を位置付けているところもある。
- 学校組織は鍋蓋式とよく言われるが、これからは、教務部、生徒指導部等の分掌の長や主任の活用など、言わば鍋蓋の蓋を長くすることが大事。
- 発達障害の支援には学年団が重要になってくるが、タテ持ちで授業が行われていると支援会議において「授業をしていないからわからない」といった弊害も出てくる。タテ持ちの有効性のみならず課題という視点も含めて見る必要がある。
- 学校経営計画について、数値目標の立て方、現在の状況分析と対策など、県に非常に細やかな対応をしてもらい、1つ1つの学校、1人1人の管理職やミドルリーダーの力量が伸びてきているところと思う。一方で市町村の現場が県に頼りすぎている。本来は、それぞれが個々の力量や学校の経営力を高めていかなければならない。例えば、学校経営アドバイザーが各学校を指導する時に、校長が当初に計画を出した際に、それが望まれるところの何パーセントの出来かをはっきり指摘してもらおうなどしてはどうか。
- 学校経営計画または関連する授業改善プランについて、小学校、中学校の校長が、結果はともかく、ビジョンをしっかりと持てるかどうか重要。

【その他学校関係】

- 性同一性障害といった課題もメンタルヘルスに入ると考えられる。現実には現場では困りはじめているので、どこかにLGBTの理解を入れておかないといけないのではないかと。
- 小中学校の「徳」の対策について、特別支援教育のことがほとんど書かれていない。発達障害の2次障害としての生徒指導上の諸問題はたくさんあるが、そこが埋もれている。そのような観点からデータを示すことも必要。そのような観点について今後の改訂の際に含めて書いて欲しい。
- 学び方が分かっていない学習障害の子どもで、結果として低学力の子どもがいる。対策としては通級指導があるが、高知県の通級指導は、中学校は2校、小学校も1桁である。高校も含めて、高知県として通級の充実を進めてほしい。
- 高知県の子どもに全国に比べて運動習慣が身に付いていないのには地理的な要因もある。過疎地域の小学校、中学校の子どもはスクールバスの時間があるので放課後に部活をしたくてもで

きない状況がある。また、小規模校では、体育の授業で野球やサッカーがしづらい状況がある。こうしたことから、近隣の小規模校が連携することが必要である。今後は、地方型、高知型の取組を検討することが求められる。

【厳しい環境にある子どもたちへの支援関係】

- 放課後学習は子どもの実態に応じて行うことが重要であり、それぞれの学校の校長裁量で行うことが必要になってくる。学校によっては宿題が分からないから放課後にそれをしているということもある。そういった学校の声も大切にしてほしい。
- 放課後学習については実施しているというだけでなくより多くの子どもに参加してもらうことが肝要。
- 高等学校における対策においてはD層への対応のみならず上を伸ばすことも大事。S層、A層、B層が伸びていないことへの対策も必要ではないか。
- D3層の生徒への対応についてはよりきめ細かい分析が必要。勉強不足で学力が低下しているのか、もともと学力が低いのか、自己肯定感や自尊感情はどうか、頑張って上位層に上がることができている生徒はいるか、勉強以外の分野で活躍できる分野があるのかなど。
- 保護者に対する啓発の強化の指標として、結果としての朝食の摂取率だけで判断するのは乱暴。それに至るまでの様々な要因、睡眠時間など様々な指標があっても良いのではないか。

【地域との連携・協働関係】

- 学校支援地域本部について、設置した後にも継続的な支援が必要。
- 学校支援地域本部の設置促進については、類似のものとして開かれた学校づくり協議会があり、既にそのようなものがあるから新たなものに手を出さないという実態もあるのではないか。そのようなものを設置している学校は、学校支援地域本部を設置しているものと同様に考えて整理した方が良いのではないか。
- 高知県に移住している方の中には様々な知識や経験を有する人がおり、社会で生き抜く力を身に付けるために、そのような様々な人たちと連携することが重要。高校生が夏休み期間に公立小学校で学習支援をしている例がある。身近なお兄さんお姉さんが教えてくれることで、子どもたちが普段より熱心に取り組むといった声も聞く。地域の色々な人たちが子どもたちに関わる仕組みが必要ではないか。

【就学前教育関係】

- 保幼小の接続は、その成果を小学校に繋ぐということ、小学校側がその成果をどう受け継いで学力やその他の諸課題に対応するかといった視点がある。また、1つの小学校に対して複数の保育所、幼稚園があるのが通例なので小学校側のリーダーシップが重要であり、むしろチーム学校の一つとして位置付けるのが良いのではないか。指標として小学校側が「スタートカリキュラム」を作成しているかどうかも必要ではないか。